

今月の一品 令和 7(2025)年 11 月



## 江戸時代の旅の必携品

飯能市立博物館 学芸職員 金澤 花陽乃

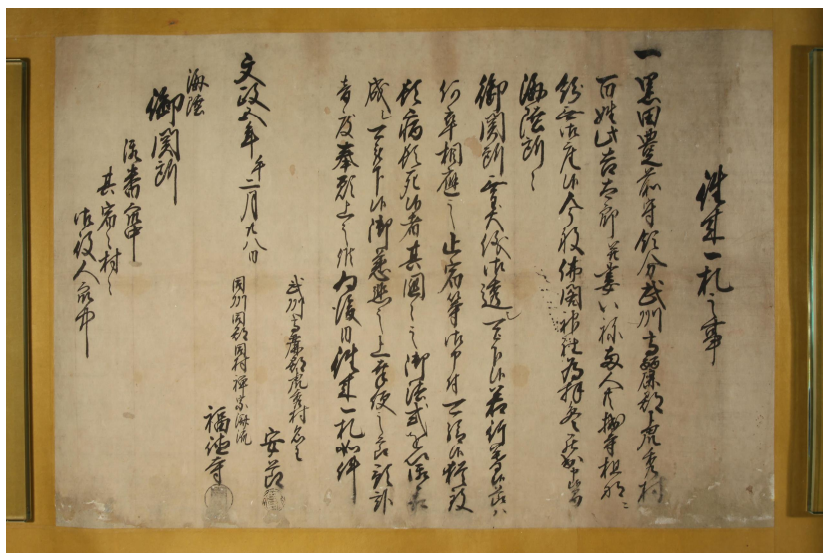
現在開催中の特別展「レアなおふだ」では、資料旧蔵者のご先祖さまが各地の旅先で手に入れたと思われる古いお札も展示しています。

江戸時代、庶民の間では旅ブームがたびたび起こりました。最も有名な行き先といえばお伊勢詣りですが、伊勢神宮に限らず、各地の神社仏閣参拝（とそれにかこつけた物見遊山）も人気を博していました。

今月ご紹介するのは、そんな江戸時代の旅の必携品ともいえる文書「往来一札（往来手形）」です。虎秀村（現飯能市大字虎秀）に住む吉太郎といねの夫婦が神社仏閣参拝の旅に出るため、名主の安節と檀那寺の福德寺から各地の関所の役人や村役人に宛てて作成されました。

文書には、吉太郎といねは福德寺の檀家として身元確かな者であるので関所を通してほしいことや、道中行き暮れてしまった場合には宿泊させて欲しい旨が記されています。そして、万が一旅先で急病にかかり急死してしまった場合は、現地の作法に則って弔いをし、何か機会があった折にできればその旨を知らせて欲しいとも書かれています。つまり、この文書は身に付けていることで旅をスムーズに続けられる、いわば江戸時代におけるパスポートのような存在であったと言えます。

吉太郎といねはこのパスポートを持ってどこへ行ったのでしょうか。もしかしたらこのご夫婦も旅先の寺社でお札を手に入れていたかもしれませんね。



往来一札之事(落合道義家 13-1)

### 往来一札之事

一 黒田豊前守領分武州高麗郡虎秀村

百姓此吉太郎并妻いね兩人共拙寺檀那二

紛無御座候、今般仏閣神社為拝参罷出申候間、

海陸所々

御関所無異議御透シ可被下候、若行暮候節ハ、

何卒相応之止宿等御申付可給候、猶致

頓病頓死候者、其国々之御法式を以御取

成シ可被下候、御慈悲之上幸便之節預計

音度奉願上之候、為後日往来一札如件

文政五年午二月廿八日

武州高麗郡虎秀村名主

安節 印

同州同郡同村禅宗済流

福德寺 印

海陸

御関所

御番衆中

其宿々村々

御役人衆中